

演題番号：8

演題名：食鳥処理場における死鳥数増加に伴う対応事例について

発表者名：○宮平誠人、服部千夏、平良勝也、大野明美

発表者所属：中央食肉衛生検査所

### 1. はじめに

当検査所では、食鳥処理場における高病原性鳥インフルエンザ（以下「HPAI」）の発生に備え「HPAI 対策マニュアル（以下「マニュアル」）」（平成28年2月19日改正）において、平常時の留意事項や異常を認めた場合の食鳥検査員の行動について定めている。今年度5月、8月、10月の3回、管内A食鳥処理場（以下「会社」）において、懸鳥作業中に高率の死鳥を認めたため、マニュアル及び「HPAI 発生時対応フロー（以下「フロー」）」（平成28年2月19日制定）に基づき対応したのでその概要を報告する。

### 2. 概要

事例1：5月9日搬入2ロット（6,000羽）中の1ロット目（4,000羽）。7:50生体検査時に開口呼吸を確認。8:00懸鳥開始。死鳥数が増加したため、8:40に懸鳥停止を指示し、死鳥数の報告を求めた。死鳥率5.2%（83羽/処理羽数約1,600羽）。8:45検査所、会社に連絡。農場の確認を指示。8:50死鳥5羽抽出し簡易検査を実施。9:15陰性確認し、検査所、会社に連絡後、作業再開（停止時間35分）。最終死鳥率7.6%（283/3,720）。

事例2：8月12日搬入3ロット（5,044羽）中の1ロット目（2,500羽）。7:50生体検査時に開口呼吸を確認。8:00懸鳥開始。死鳥数が増加したため、8:40に懸鳥停止。死鳥率6.1%（97/1,600）。以下事例1と同様に対応。9:10作業再開（停止時間30分）。最終死鳥率7.0%（163/2,340）。

事例3：10月20日搬入3ロット（5,915羽）中の1ロット目（3,165羽）。7:50生体検査時に開口呼吸を確認。8:00懸鳥開始。死鳥数が増加したため、8:55に懸鳥停止。死鳥率3.5%（76/2,200）。以下事例1と同様に対応。9:20作業再開（停止時間25分）。最終死鳥率3.4%（103/3,065）。

### 3. 考察

今回、高率の死鳥を認めた3事例についてHPAI発生を疑いフローに基づき対応したところ、懸鳥停止から簡易検査結果陰性（作業再開）までの時間は平均30分で、概ね順調に対応できた。

事例1・2では、懸鳥停止の時点で既に死鳥率が5～6%を超えていたため、事例3では死鳥率早見表（5分毎）を作成し、流れ作業においても3%超過時点で速やかに懸鳥停止できるよう改善した。会社の対応は、懸鳥停止後の死鳥の計数や農場確認等が迅速になり、事例毎に向上した。

今後は簡易検査陽性時を想定し、会社と継続的に机上演習に取り組み、相互にマニュアル等の確認を行い、危機感をもって食鳥処理や検査にあたるのが重要である。

なお、死鳥増加の要因は、3事例とも生体検査前に提出された死鳥羽数報告書や農場確認で異常を認めなかったことなどから生鳥ホームでの暑熱が一因と考えられた。